

8月5日(火)発行

MUZA  
KAWASAKI  
SYMPHONY HALL

ほぼ

# 日刊サマーミュージック



Hobo Nikkan Summer Muza

## 若きN響の鮮やかな「音楽の旅」



8/4 NHK 交響楽団

©池上直哉

N響公演は注目の若手指揮者松本宗利音と人気ピアニスト阪田知樹を迎え、音楽でイタリア、アメリカ、英国を巡る心躍るプログラムで満員御礼。プレコンサートはベートーヴェンの《セレナード》第1、3、5楽章。木製のフルートとヴァイオリン、ヴィオラが親しげなアンサンブルを繰り広げる。

さて、個人的に久し振りのN響は、若い楽員が多いのでびっくり。そのうえ奇しくも指揮者、ソリスト、コンサートマスターの郷古簾が同じ1993年生まれ。チャイコフスキー《イタリア奇想曲》から気合満々。金管の重厚かつ充実した響き、弦は三連符やアクセントを強調したランテラリズムが勇ましい。続いてガーシュインの《ラプソディー・イン・ブルー》。阪田のソロはクラシカルな洗練とジャジーなスウィング感、グ



©池上直哉

ルーヴ感、即興的な趣を併せ持ち、オーケストラも楽しそう。各人の個性と力量が存分に発揮され、「ホワイトマン楽団のテーマ」を奏でるヴァイオリン群の柔らかな音色と「歌」がすばらしい。満場の喝采に応じて、阪田は超絶技巧のワイルド編ガーシュウィン《魅惑のリズム》をいとも鮮やかに弾いてみせた。そしてメンデルスゾーンの交響曲第3番《スコットランド》。第1楽章は構成が明快で劇的陰影も不足ない。第2楽章は生き生きとした精神に富み、第3楽章は郷古を中心とした弦の歌心に満ちた純度の高いフレーズ、葬送行進曲風主題の暗い情熱が印象的。終楽章も総じて攻めの姿勢の熱演。アンコールにグリーグの《朝の歌》を演奏して音楽の旅を終えた。今期N響デビューを果たした松本宗利音、今後経験を積むことでさらに力をつけていくことだろう。(音楽評論家 那須田務)



指揮：松本宗利音 ピアノ：阪田知樹  
コンサートマスター：郷古簾

### ご来場者の声

プレコンサートからアンコールまで質の高いプログラムだった。N響の外の暑さに劣らない熱量、それでいて美しい演奏は圧巻。(中略) 阪田さんの澄んだピアノの響きは美し過ぎてブルー(憂鬱)というよりは透明な青い海のブルーを想起した。(Mido) / 若きマエストロの素晴らしい指揮、ゴージャスなN響のサウンド、阪田さんの美しいピアノを堪能出来て最高でした。メンデルスゾーンの風景画を思い出しながら聴きました。熱演でしたがスコットランドとパールギュントで気持ちが少し涼しくなりました。(70代・主婦・やぎ) / 知人から教えてもらいチケットを入手した時には既にB席しかなく、3階のバイオルガン近くの席でした…。が、後方席でもなにも問題なく、迫力ある演奏を堪能できました！むしろ松本宗利音さんの指揮を、演奏者側として見ているような一体感が味わえてとてもよかったです。(50代・自営業・14) / 《スコットランド》こんなにドラマチックな曲だったのか！新たな曲を聞いた気分。発見があった！やはりライブは素晴らしい。(50代・自由業・MASA-T) / さすがN響、堂々としている感が全体から出ていた。選曲のバランスが良く(アンコールも含め)、本当の意味で音楽を楽しめた。1つの作品として、本日のコンサートがあった。(50代・会社員・Nori J) / 舞台上の笑顔の演奏の中、真夏の日本をいつのまにか離れて、いろんな国を旅していました。“こころの夏休み”をありがとうございました。(まこまこ)

### フェスタ サマーミュージック KAWASAKI 25 明日の公演情報

## 東京フィルハーモニー交響楽団

ほとばしるヴィエニャフスキ、駆け抜けるベート7

8/6(水) 15:00開演 (プレトーク14:20~)

指揮：出口大地

ヴァイオリン：前田妃奈\*

■ ベートーヴェン：劇付随音楽『エグモント』序曲

■ ヴィエニャフスキ：ヴァイオリン協奏曲第2番\*

■ ベートーヴェン：交響曲第7番

出口大地



©hiro.pberg berlin

前田妃奈



©平館平

当日券あり



S席 6,000円  
A席 5,000円  
B席 4,000円  
U25 各席種半額

TEL・WEB予約 当日 13:00まで

当日券カウンター 14:00より

## 浴衣 de SUMMER MUZA!

浴衣でご来場の方へ、千社札風のオリジナルステッカーをプレゼント！(基平などもOK♪)

【期間限定】  
ホール内主催者  
受付までお申し  
出下さい。



# まるで公開講座！ 小川典子のピアノと子どもたち



8/3 イッツ・ア・ピアノワールド

増田雄介

の、少し緊張した面持ちも見せた子どもたちは、小川の第一音であっという間に集中する。ラヴェル、サティ、そして迫力のショパン！ 途中、子どもたちが小川に質問するコーナーでは、練習時間やピアノを始めたきっかけ、「大きな音を出すにはどうすればいいですか？」という本格的な質問まで飛び交った。小川は、そんな子どもたちの質問に明るく、ときに実演を

交えながら、熱心に答えるのだった。

最後はエルガーの『威風堂々』で締めくくり。小川のピアノにつられて首を振る子、手拍子をとる子の姿が印象的だった。ピアニストと大人、そして子どもたちが、ピアノの世界を共有したこの時間は、きっと今夏の思い出になったに違いない。

(ヴァイオリニスト/ライター 加藤綾子)



増田雄介



増田雄介

ピアノ：小川典子

## ご来場者の声

私はショパンの曲が一番きれいだと思います。とくに、小鳥の声みたいなどころや台風がおそってきそうな場面がきれいだと思います！そして、音が消えるような音を出せてすごいと思いました。(11歳・小学生・ゆんゆん) / すごく感動しました。(9歳・モンキー) / とても良かったです。川崎に税金納めてよかった。(50代・匿名) / 私はこのコンサートに来るのは初めてでしたがとても良い演奏でした。音色がとっても綺麗で、また聴きたいと思いました。エルガーの『威風堂々』は私も聞いたことがあって少し編曲されていたけど知っていたのでとてもうれしかったです。また聴きに来たいです。ありがとうございました。(11歳・小学生・刺身にはちみつかける人) / たのしかった(4歳・さほ) / 子どもじゃないけど、毎年このコンサートを聴きにきています。小川さんから、子どもたちからも、元気がもらえるコンサートで、この元気をもらってまた1年楽しく過ごしたいと思います。(60代・匿名)



ピアニスト・小川典子によるリサイタル「イッツ・ア・ピアノワールド」は、フェスタ・サマーミュージアにおける大人気企画のひとつ。小川による楽しいトークと演奏が、文字通りピアノの世界を見せてくれる。なんとといっても醍醐味は、子どもたちがホールの舞台上に座って鑑賞できること。大きなホールでピアノ音楽を聴けるだけでなく、プロのピアニストの手さばき、呼吸、鍵盤の移ろいを、間近に体験できるのだ。しかも今回は、事前に配られた「音楽自由研究キット」つきで、鑑賞ノートを書くこともできる。

演奏前、ステージに我先に上ったはいいもの



パートナーショップのご紹介  
エンジョイ!  
川崎!!  
Enjoy Kawasaki

## 牡蠣好きのためのお店

休日ランチに選んだのは、川崎駅直結のラゾーナ川崎4階にある「Oyster Plates」さん。牡蠣好きとしては度々訪れるお店です。ランチメニューは牡蠣フライ4ピース(¥1,298)からオイスターペアセット(¥6,578)まで幅広く展開されています。

久しぶりに訪れたのでちょっと贅沢に焼き牡蠣4種と牡蠣フライランチを注文！休みなんで白ワインも。火傷注意な揚げたての牡蠣

フライ、一つ一つ味の違う焼き牡蠣、そしてその殻に残った汁をパンにつけていただく!! すべて美味!!

備え付けのレモン風味のオリーブオイルがまた爽やか◎ お店のオススメはやっぱり生牡蠣! 特に今が旬の岩牡蠣はぜひ味わってみたいですね!

(やまちゃん)

### オイスタープレート

B ラゾーナ川崎プラザ 4F

パートナーショップ特典

飲食代 10% 引き

※「優待チラシ」持参者および同伴者  
※営業時間内は終日可



焼き牡蠣4種と牡蠣フライランチ (税込1,958円)

フェスタサマーミュージア公式サイト  
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージア  
で検索 & 投稿  
お待ちしております!



X: @summer\_muza  
Facebook: @kawasaki.sym.hall  
Instagram: @muzakawasaki  
YouTube: @kawasakisymhall

(経営管理課S)

ミュージアに驚く日々が続くのでした。  
時は流れ、今度は(ミュージアではない)ホールに転職。ホール同士の会議などで、ミュージアとは何かと関わることも多々ありました。そして昨年、かなり遠回りしましたが、ミュージアの一員に。事務所には見覚えのある顔もちらほらいて、今さら「新人です!」とは言えないまま、気付けば2年目。知っていたようで、知らなかったことだらけのミュージアに驚く日々が続くのでした。

残念ながらそのときは縁がなかったのですが、後に某オーケストラに転職。第1回フェスタサマーミュージアに制作担当として、ミュージアに初めて足を踏み入れました。その後も、サマーミュージアの担当として何度か出入りしたり、(誰が発掘したのか写真が掲載されている過去のプログラムがあったり...)、もちろん観客として行ったり。ミュージアはずっと、自分にとって「近いホール」でした。

さかのぼること\*\*年前。川崎駅前に新たに建てられるというホールの採用試験を受けに行きました。面接会場の窓からは、まだ屋根もない工事中のホールが見え、ロビーに置かれている「触る模型」そのまま。今でもとても印象に残っています。

スタッフ日誌